

<新規陽性者の発生動向>

(1) 大阪府の発生動向

- 11月下旬以降、これまでの取組みにより、新規陽性者数は減少傾向にあったが、直近1週間は**前週比1.38倍と急増**。
直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は29.72人(1/7)と国の分科会ステージⅣのモニタリング指標(25人)を再び上回り、陽性率以外はステージⅣの基準を満たしている。
- **新規陽性者に占める40代未満や感染経路不明者の割合が、直近の約2週間で再び増加し、特にここ数日は急増**。

(参考 これまでの取組み)

- ①11/21～イエローステージⅡに移行。
府民等に対し、「5人以上」「2時間以上」の宴会・飲み会は控えることや、重症化リスクの高い方は、不要不急の外出を控えることなどを要請
- ②11/27～大阪市北区、中央区の接待を伴う飲食店、酒類の提供を行う飲食店(居酒屋等に対する休業又は営業時間短縮の要請)
- ③12/4～府民に対するできる限りの不要不急の外出自粛要請
- ④12/16～大阪市内の接待を伴う飲食店、酒類の提供を行う飲食店(居酒屋等に対する休業又は営業時間短縮の要請)
府民に対する不要不急の外出自粛要請

(2) 市内・市外居住者の発生動向(週・人口10万人あたり)

- **市内・市外ともに直近1週間で再び増加に転じており、いずれも分科会の指標(25人)を上回っている**。
- **市内・市外の各年代いずれも、直近1週間は前週に比べ増加**。
(20-50歳台の世代の感染拡大が、家庭内、医療機関や高齢者施設等での感染に繋がっており、重症者が増加する要因)

(3) 夜の街関連の発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の割合は、これまでの取組みにより減少傾向にあったが、直近2週間で増加に転じており、特に居酒屋・飲食店、バーの滞在歴のある陽性者は11月27日の時短要請開始時点の水準に戻りつつある**。
滞在エリア別では、クラスターが増加したことで市外でも増加。市内も再び増加に転じ、時短要請開始時点の水準にまで戻っている。
- **特に年末年始は、帰省による「旅行参加者」関連や、会食・カラオケなど同窓会、友人同士や親族の集まり、クリスマスや忘年会等のイベントにより感染が推定される事例が数多く確認**。

感染状況と医療提供体制の状況について

<医療提供体制の状況>

- 重症病床使用率は12/15付で「大阪コロナ重症センター」運用開始により一時70%を下回るも、1月4日に重症者数が171名と過去最高となり、**依然ひっ迫**（1/7 71.2%（実運用率80.4%））。
12/3以降新規陽性者366名が日々発生すると仮定した場合の試算では、**1/7に重症者数119名となる見込みが168名と大幅に上振れ**。また、60代以上の新規陽性者数割合は、直近1週間で依然3割程度あり、**重症者数は今後も試算を上回る状況が予想される**。
- **軽症中等症病床は**、試算では入院者数が1/7に387名となる見込みが**853名と大幅に上振れ**しており、**極めてひっ迫**。（1/7 実運用率67.5%）。
- **宿泊療養施設についても**、直近では宿泊療養の開始人数が連日200名を超えるなど、**ひっ迫**している。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 時短要請や不要不急の外出自粛要請等の取組みの効果（減少要因）により、12月下旬の新規陽性者数は高水準で増減が均衡していたが、要請期間が1か月以上に及び、これらの取組みの効果が徐々に薄れつつあると考えられること、また、年末年始特有のイベント等による影響もあり、現在、**新規陽性者数は急増に転じている。**
医療提供体制も依然、極めてひっ迫。
- **近畿2府4県のうち、奈良県以外の府県において1月7日に新規陽性者数が過去最多となっていることや、新規陽性者に占める40代未満や感染経路不明者の割合が増加に転じていること、年末年始に確認された新規陽性者の行動歴等を踏まえると、今後、感染が更に拡大し、確保病床をオーバーフローする恐れがあることから、府民への更なる強い呼びかけなど、感染抑制に向けたさらに強い取組みが必要である。**
- **併せて、国に対する緊急事態宣言発出の要請について、以下の状況を踏まえたうえで検討が必要。**
 - ① 直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数が、継続して25人以上（国分科会指標ステージⅣ）で推移
 - ② 新規陽性者数が増加傾向
 - ③ 医療提供体制がひっ迫